



SBSビジネスレポート

2015年12月期 期末株主通信

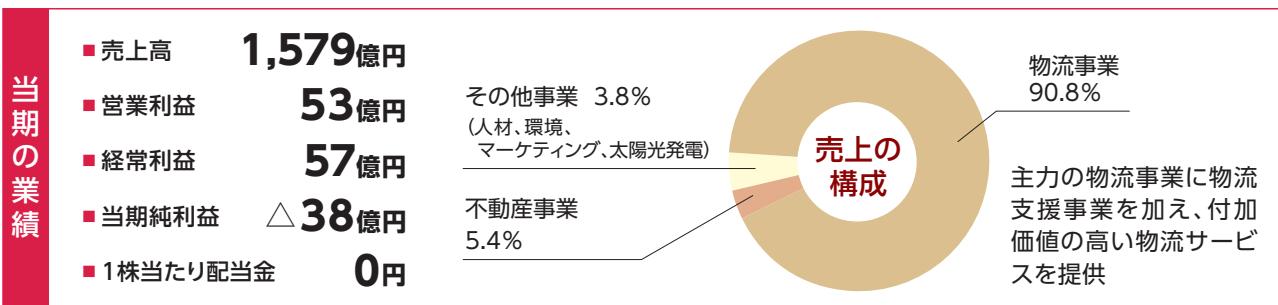
2015年1月1日～2015年12月31日

INDEX

ビジネスハイライト	01
社長メッセージ	02
ハイライト	05
トピックス	06
連結業績	07
会社概要&株式の状況	10

SBSホールディングス株式会社

SBSグループは、あらゆる物流ニーズに優れた品質でお応えします。



※ 本資料の将来の見通しに係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

国内事業は増収増益 海外事業で最終損失 翌期はV字回復へ

代表取締役社長 鎌田 正彦

当期(2015年12月期)の経営環境

当期は、燃料価格の低下による恩恵を受けたものの、ドライバー不足に伴う採用費や備車費が上昇したことによるコスト増に加え、個人消費が伸び悩み、天候不順などから荷動きが鈍化するなど厳しい経営環境が続きました。

このような環境のなか、当社グループは、2014年度から開始した4か年の中期経営計画「SBS Growth 2017」に基づき、事業戦略や投資戦略などにグループ一丸となって取り組みました。



営業強化で3PL事業が拡大

事業戦略では、3PL事業のさらなる拡大を目指し営業組織を一新したほか、大阪に物流事業および人材事業の営業拠点を開設し、関西圏や西日本地区での市場開拓を本格的に開始いたしました。新規業務では、食品メーカー、大手小売業、高級ワインなどの物流センターを立ち上げたほか、音楽・映像ソフト卸大手の株式会社星光堂のCD・DVD物流業務を受託しました。また、翌期に向けて、センター運営を中心とした受注が拡大しました。

ASEAN地区の事業基盤整備

海外事業は、別掲いたしましたとおり、インドの当社連結子会社SBS Transpole Logistics Pvt. Ltd. (以下、トランスポール社)の所有株式を売却し同社の経営から撤退致しました。一方、フィリピンでは、合併でコンテナ輸送事業を開始、また、ベトナムでも現地大手流通グループと覚書を締結し低温食品物流の事業化を検討するなど、ASEAN地域での事業基盤整備に取り組みました。

物流施設への大型投資を継続

投資戦略では、1月に横浜市長津田で大型物流センターが竣工し、大手食品メーカーの物流拠点として稼働

いたしました。3月には埼玉県所沢市において大手百貨店向け専用物流施設に着工し、工事中の横浜市磯子区の物流センターと合わせて2棟、延床面積2万坪超の大型物流施設の建設に取り組みました。お客様の確保も好調に進んでおり、完成する2016年春から両施設ともフル稼働する予定です。



新杉田物流センター(2016年2月竣工)

国内事業は増収増益、 海外事業で最終損失に

これらの結果、売上高1579億円(前期比11.6%増)、営業利益53億円(同30.5%増)、経常利益57億円(同58.2%増)と増収増益を達成しました。しかしながら、トランスポール社が当期から開始した大口取引にかかる未収債権について回収不能と判断したことを端として、同社経営からの撤退*を決定しました。当期純増益は、同社にかかる損失119億円を含む特別損失135億円を計上したことにより当期純損失38億円となりました。

翌期（2016年12月期）業績について

翌期については、国内の物流事業、不動産事業ともに当期を上回る好調な業績を見込んでおります。海外事業は、トランスポール社からの撤退により売上面では大きく縮小しますが、利益面ではのれんの償却費負担が大幅に減少することでプラス効果となります。これらの状況から当社グループの翌期業績は、V字回復すると考えております。なお、翌期以降に同社経営撤退による追加の損失発生の可能性はないものと判断しております。

当期と翌期の配当について

当社は、継続的な配当維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることを利益配分に関する基本方針としております。しかし、当期純損益が38億円の大幅赤字となったことから誠に遺憾ながら当期の期末配当は見送らせていただきます。翌期2016年12月期の配当につきましては、通常の期末配当として1株当たりの配当金16円に加えて、2016年3月31日を基準日とする四半期配当として1株当たりの配当金16円を予定しております。

株主の皆様へ

株主の皆様には、当期の最終損益が赤字となり、多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことを心より

お詫び申し上げます。翌期は、V字回復の年として事業拡大と企業価値の向上に取り組んでまいりますので、今後もSBSグループを末永くご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※トランスポール社からの経営撤退について

トランスポール社は、インドを本拠地に中国、香港などに事業展開しているフォワーダーです。当社グループは、海外事業拡大のために同社株式を2014年7月に取得しました。

しかし、当期から同社の大口取引において債権の回収が遅延。今後の回収可能性を検証いたしました。最終的に債権回収が極めて困難であると判明いたしました。同社の再建策も検討しましたが、同社の資金繰りがひっ迫すること、世界経済情勢が急激に悪化していること等を鑑み、再建が難しいとの判断に至りました。

これらを踏まえて、当期において同社に対する全ての投資残高を損失処理するとともに、所有株式の全部を第三者に売却することで、同社の経営から撤退することといたしました。

注) フォワーダーとは、自らは運送・輸送手段を持たずに、荷主から貨物を集めて他の運送業者の輸送手段（船舶、飛行機等）により貨物を運び運送事業者です。

SBSグループは経営理念を通じ、全社員に「社会的責任なくして企業の発展はありえない」と伝えています。この理念を実現するため事業ではもちろんのこと、事業に関わるステークホルダーの皆様へ寄り添い、喜ばれ、社会の発展に広く貢献する活動にグループ全体で取り組んでいます。SBSグループのCSR活動の一部をご紹介します。

■ 鎌田財団

公益財団法人SBS鎌田財団は、社会インフラである物流の学術研究を支援し、物流効率化や事故防止などの研究成果をもって産業全体の発展と国民生活の向上に寄与することを目的としています。2015年10月には、物流の振興・発展に資する学術研究や研究集会、シンポジウム、セミナー等の開催に対する研究助成の公募を開始しました。SBSグループは、当財団を通じて社会に役立つ物流の振興・発展に貢献してまいります。



公益財団法人 SBS鎌田財団

■ 地域活動

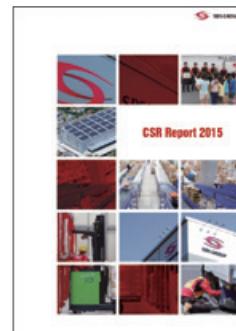
SBSグループでは、さまざまな地域貢献活動を行っています。2015年9月には、グループ社員が東京・亀戸で行われた交通安全街頭キャンペーンに参加。10月には本社・敷地内で、地域自治会の皆様と従業員の健康増進を目的としたイベント「パワーウォーキング講習会」を開催しました。また10月には、従業員のご家族に会社や仕事への理解を深めてもらうため、日本レコードセンターが従業員の子供たちを対象に職場見学会を開催しました。



パワーウォーキング講習会

■ CSR報告書

SBSグループのCSR活動を、わかりやすくまとめた冊子です。年に1回、2009年から毎年発行を続け7冊目を迎えることができました。2015年発行の特集では、商業やビジネスが集中するエリアの環境対策として注目されている「館内物流」をご紹介します。当社ウェブサイトからもご覧いただけます。ぜひご覧ください。



<http://www.sbs-group.co.jp/hdg/csr/report/>

■ 命をいつくしむ活動

プレミアムペットフードの通信販売およびEC支援サービスを展開するマーケティングパートナーは、2015年10月に開催された「PET DAY 2015 AUTUMN」に協賛・参加しました。「PET DAY」はペットとの出会いを創出するイベントです。今回は“亡くなったペットをしのぶ”をテーマに、音楽や書籍を通じて命をいつくしむ活動が催されました。家族を失ったペットが新たな家族と出会う「里親会」も開催されました。



音楽・映像ソフト卸大手の星光堂と 業務・資本提携

3月

(SBSグループ)

音楽・映像ソフト卸大手の星光堂子会社の業務を、日本レコードセンターの拠点へ集約し業務委託を受ける「物流業務委託基本契約書」を締結しました。



フィリピンでコンテナ輸送事業を開始

8月

(SBSグループ)

フィリピンの有力フォワーダーである Sky Freight Forwarders Inc. を中核とする De Guzman Group と合併で、物流会社 SBS Logistics Philippines, Inc. を設立。コンテナ輸送(ドレージ)事業を開始しました。



SBS即配サポート新たなスタート

7月

(SBS即配サポート)

7月1日、SBSサポートロジとSBS即配が合併し、SBS即配サポートとして新たにスタートしました。企業間の小口荷物「即配事業」と産業廃棄物の回収や中間処理を行う「環境事業」を推進しています。



高級ワインの輸入から配送までを 一括受託

11月

(SBSロジコム)

ワイン物流事業を本格的に開始。ワイン専用拠点を開設し、高級ワインの国際輸送手配から通関、保管、流通加工、レストラン・小売店へのリーファー配送までワンストップでご提供しています。



★ ★ 東京都の燃費評価制度にて2つ星評価

8月

(SBSトランスポート)

SBSトランスポートは、運送事業者としてさらなる燃費改善とCO₂削減を推進するため、東京都が毎年実施する東京都貨物輸送評価制度に申請。その結果、2つ星評価をいただきました。



グリーン物流パートナーシップ会議にて 物流審議官賞受賞

12月

(SBSロジコム)

荷主と物流事業者が連携し持続可能な物流体系を構築することを支援する「グリーン物流パートナーシップ会議」にて、「物流審議官賞」を7社連名で受賞いたしました。

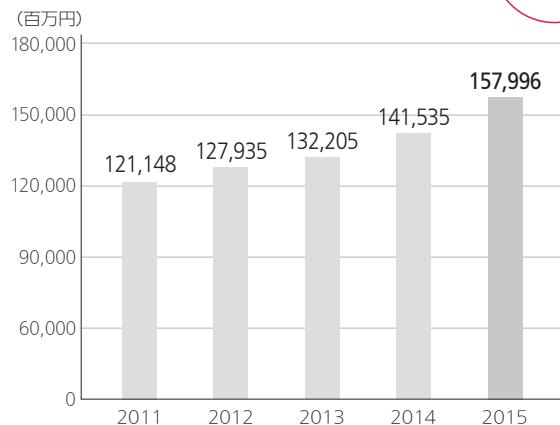


当期の連結業績

厳しい経営環境のなか、海外子会社がフル寄与したことや国内物流事業が拡大したことで、売上高は前期比で増加。燃料価格の低下、料金改定効果、為替差益の影響などから営業利益と経常利益も大幅に増加しました。いっぽう、トランスポール社に対するすべての投資を損失処理したことにより、当期純利益はマイナスに転じました。

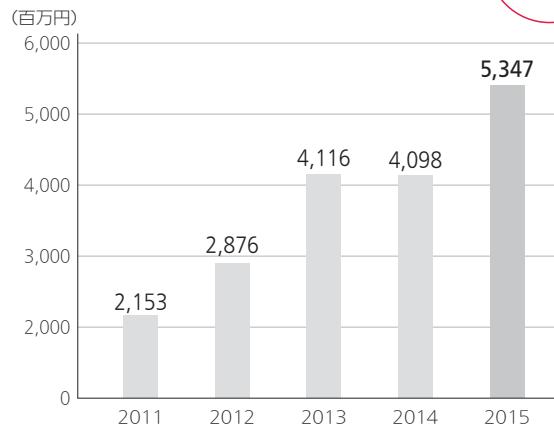
■ 連結売上高

前年同期比
11.6%増



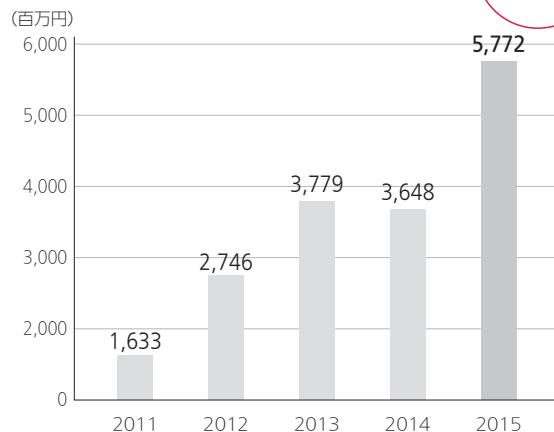
■ 連結営業利益

前年同期比
30.5%増



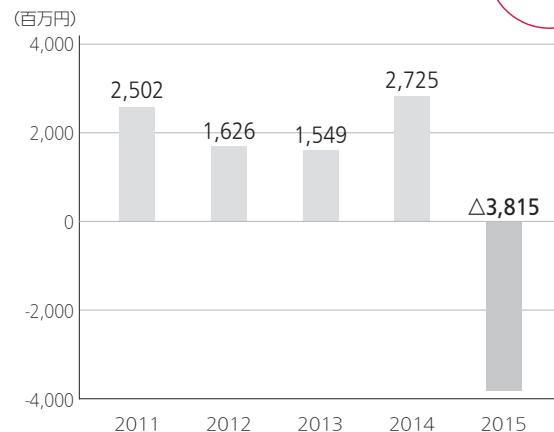
■ 連結経常利益

前年同期比
58.2%増



■ 連結当期純利益

前年同期比
-



■ セグメント別概要

(単位:百万円)

	2015年通期		2014年通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
物流事業	143,391	2,072	129,884	1,624
不動産事業	8,641	3,292	5,103	2,359
その他事業	5,963	238	6,548	344
調整額	—	△256	—	△229
合計	157,996	5,347	141,535	4,098

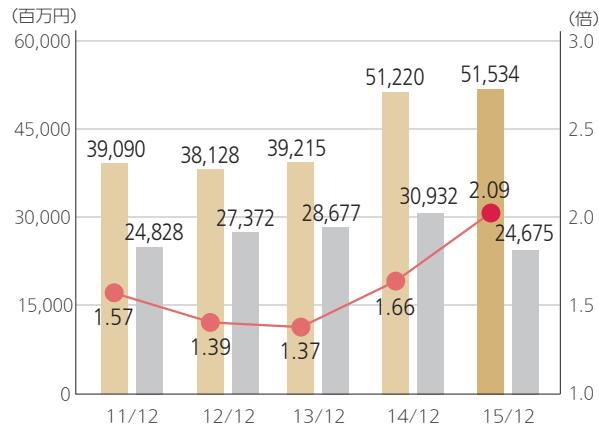
● **物流事業**：トランスポール社を連結したこと、3PL事業が好調だったことなどにより、売上が増加しました。また、燃料価格の低下、料金改定などの恩恵を受け、営業利益は増加しました。

● **不動産事業**：1月に長津田物流センターが稼働し、賃料収入が増加しました。また、販売用物流施設の一部流動化により、売上高、営業利益共に増加しました。

● **その他事業**：人材事業における、人手不足に起因する採用コスト増、マーケティング事業の子会社売却などの影響で、売上高、営業利益共に減少しました。

■ ネット有利子負債／株主資本／ネットDEレシオ(右軸)

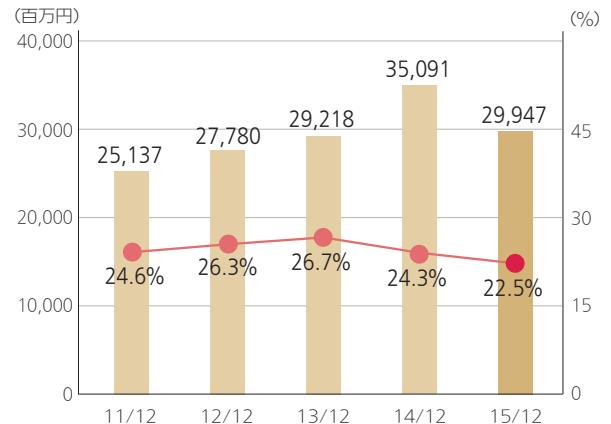
■ ネット有利子負債 ■ 株主資本 ● ネットDEレシオ



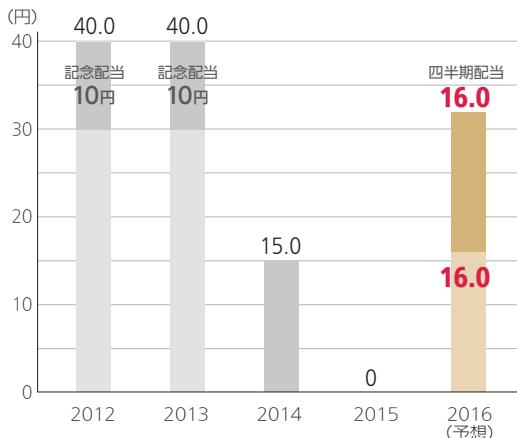
※ネット有利子負債=長期・短期借入金+社債-現預金
 ※ネットDEレシオ=ネット有利子負債÷株主資本

■ 純資産／自己資本比率

■ 純資産 ■ 自己資本比率



■ 配当金の推移



※2014年6月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。
 ※2012年の記念配当は、東京証券取引所市場第二部への上場を記念して実施したものです。
 ※2013年の記念配当は、東京証券取引所市場第一部への上場を記念して実施したものです。

利益配分に関する基本方針

SBSグループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要施策のひとつと位置付け、より強固な経営基盤の構築のために内部留保の充実を図るとともに、継続的な配当維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることを利益配分に関する基本方針としています。

しかしながら、2015年12月期の連結当期純損益が大幅赤字となったことから2015年12月期の期末配当は見送らせていただきます。

2016年12月期の配当につきましては、通常の期末配当として1株当たりの配当金16円に加えて、2016年3月31日を基準日とする四半期配当として1株当たりの配当金16円を予定しております。

来期 (2016年12月期) の連結業績予想

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS (Forecast)

売上高

145,000 百万円

当期比 8.2%減

営業利益

6,200 百万円

当期比 16%増

経常利益

6,200 百万円

当期比 7.4%増

当期純利益

3,600 百万円

当期比 ー

■ セグメント別

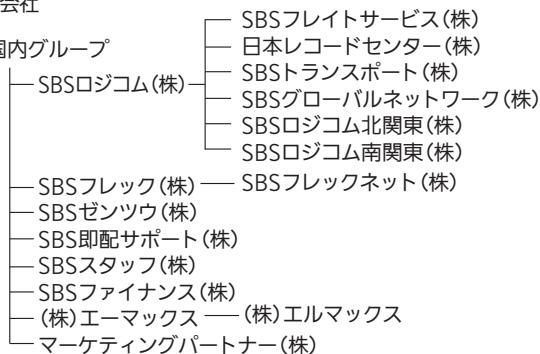
(単位:百万円)

	物 流	不 動 産	そ の 他	調 整 後 合 計
売 上 高	128,200	10,500	6,300	145,000
増減率	△10.6%	21.5%	5.7%	△8.2%
営 業 利 益	1,200	4,700	300	6,200
増減率	△42.1%	42.8%	26.1%	16.0%
営 業 利 益 率	0.9%	44.8%	4.8%	4.3%

■会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創立 1987年12月16日
 資本金 39億2,075万円
 売上高 1,579億円(連結) ※2015年12月31日
 従業員数 14,191名(連結)
 所在地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
 TEL:03-3829-2222(代表)
 FAX:03-3829-2822
 事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他
 連結子会社

■国内グループ



■海外グループ



■役員

代表取締役 鎌田 正彦
 常務取締役 入山 賢一
 取締役 杉野 泰治
 取締役 渡邊 誠
 取締役 岩崎 二郎
 取締役 関本 哲也
 常勤監査役 山下 泰博
 監査役 正松本 重孝
 監査役 竹田 正人

※取締役のうち、岩崎二郎、関本哲也は社外取締役です。
 ※監査役のうち、正松本重孝、竹田正人は社外監査役です。

■株式の状況

発行可能株式総数 154,705,200株
 発行済株式の総数 39,718,200株
 単元未満株 2,100株含む
 単元株制度の有無 有(100株)
 株主数 4,393名

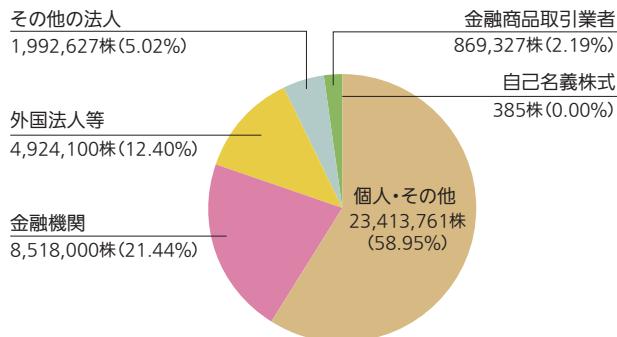
■大株主の状況

株主名	持株数	持株比率(%)
鎌田 正彦	14,888,400	37.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,144,000	10.43
SBSホールディングス従業員持株会	1,569,300	3.95
特定有価証券信託受託者 株式会社SMBC信託銀行	1,200,000	3.02
大内 純一	928,200	2.33
東武プロパティーズ株式会社	909,800	2.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	830,400	2.09
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	791,294	1.99
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	750,000	1.88
株式会社スリーイーホールディングス	468,000	1.17

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、少数第3位を切り捨てて表示しております。

■所有者別株式分布状況

(発行済株式総数:39,718,200株)



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

期末配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年3月開催

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 市場第一部

公 告 方 法 公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に
公告いたします。

【ご注意】

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822

